



サカタニ友の会ニュース

発行者
株式会社サカタニ
集西条サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993 京・
東山区七条こころ坂
TEL・075-561-7974
URL www.sosake.jp/
E-mail info@sosake.jp
毎月発行の
会員新聞です
編集 酒谷義郎
vosirou@sosake.jp

和歌山鉄道・ 貴志川駅 たま駅長没す

7月号は「祇園祭」をトップページで書き終えていた。



その日和歌山電鉄・貴志の三毛猫「たま駅長」が22日夜に、急性心不全で死んだ報が入り、急遽、祇園祭の文を、映画「祇園祭」の広告を残して本欄の全文を入れ替えた。

たまが駅長になるズート昔、貴志川町(現 紀伊山崎町)で三週間余過して、今に繋がる貴重な経験をした。たまが話題になると何時もその青春時代を思い出すのだ。それは昭和28年(1953)7月17日、18日朝にかけて梅雨前線による豪雨(南紀豪雨)で和歌山県北・中部で大被害があり、民主団体水害救援団体(民水対)の一員として貴志川町に8月初旬に行った時のこと。

隊員は立命大3名・松下電気京工場労組から、男子一名女子二名。地元組織から和歌山市駅で 貴志川町へと指示で 貴志川駅。駅から紀ノ川支流、貴志川(決壊して被害を与えた)の橋を渡り町に入る。橋に、不逞の輩が、救援の名を借りて政治活動をする。決して油断するな」との町長名入りの「立札」があり、救援にきたのに怖い町やなあ」と話しながら指定された民家に着いた。

翌日から、被害民家の床下の泥出し、田畑の泥を取る作業。夜は、被害者宅を訪問し、困りや要望の集約と、県に要望を訴える。被害者同盟立ち上げに専念した。

困ったのは風呂。民家の壊れて使えず、女子だけは風呂のある家へ。男子は暗くなる前に、隣町に繋がる山道傍の農業用溜池を代用。道に着替え、汗くさい衣服を脱ぎ置く。当時、町は、真珠工場(ガラス工房)リカセ輸出が多く、勤務終了後、その道は、大勢の女工さん達の帰り道。道端の私たちの肌着等を池から遠い地点に移され、それをスラッ裸で取りに行く姿を見られ、大勢の女の人たちに笑われ18歳の私達は恥ずかしく困った。

「祇園祭」は1968年、市民カンパで製作公開された日本映画映画。復興協会製作・松竹配給。原作・西岡克己。「中村錦之助。美空ひばり」

☆ 上映・案内
日時・7月23日(木)
24日(金)
各日・13:30~・18:30・
中京都文化博物館:500円
会 場:3F フィルムシアター



「中村錦之助。美空ひばり」
当時、私もカンパ運動に協力した。もう一度見たい映画だ。是非ご覧あれ。

救援は地元・他県の人々も参加、被害者同盟「出来て、県庁へ集団交渉に行った。和歌山電鉄も往復電車賃は無料の協

第3日曜日開催日6月21日(定例:朝9時~) 第125回 朝粥食べておしゃべり会 ご講演・早川嘉美様 報告者:高木宮智様



朝粥食べておしゃべり会
恒例食前 お話・早川嘉美様
お題・「相続と相続税」
これだけは知って
おきましよう！

本日のご講師は 税理士早川嘉美さん。(今熊野在住) 1943年生まれ、お元気で、こやかなお方です。サカタニのギャラリで奥様は人形展を、ご本人は水彩画展を何度も開催されている方でもあります。

「相続と相続税」これだけは知っておきましよう」と題し、相続の税制の変更のポイントをわかりやすくお話いただきました。法律は一般人にはよくわからないものですが、法律を知っているのと知らないのとでは大違い。税の知識で困ったときに助けていただけたのが税理士さんですが、信用できるか見極めが大切だそうです。そして、週刊誌や新聞広告で書かれていることは本当

にそうなのか、よく判断する視点が大切だ。たとえば、節税対策で純金の仏像の購入を勧められることがあるそうだが、盗られたら大変と金庫に仕舞ったら課税、仏壇で毎日拝んだら非課税という知識も役立ちますが、もっと本質的なことは果たして購入が本当に為になるのか、金は購入と売却では相場が異なり、損をする可能性も高いそうです。また、相続税はめった場合に大変で、相続税対策よりも相続(争続)対策が大切とのこと。円満な分割協議ができるか、遺言があるのか等、よくわかっていないのに自己流の判断は禁物、そういうときこそ餅は餅屋、的確な判断をいただける税理士さんに相談がいいですね。いざというときに慌てないために日頃からの備えが大切なことがよく理解できました。豊富な資料もいただきました。ありがとうございました。

京都：東山への入口： 七条大橋の草引き！

日時：七月七日(火)
集合：七条大橋・東詰南側
作業：朝9時
(多分0.5~1.0分程度)
準備
手袋 小さなスコップ
連絡場所 集西条サカタニ
参加の方電話を
075 561 7974
AM9~pm6 00
終了後集西条
サカタニ2Fで小時間
お茶を飲み懇談会

▽が、昨今は先祖帰りの感あり、軍財閥は生き返った。憲法九条の鎖を切られれば、戦争が先祖帰りするかも。

△1935年(昭和10)
「〇〇総会で、1940年のオリンピック開催地は、猛運動をして東京が、開催地と決定された。」
▼1940年は紀元2600年にあたり、その記念として絶好の機会「国民体育」と「国威を示すに大きく役立つ」思惑が窺える。
▽ベルリンに続きアジアで初のオリンピック開催で、大日本帝国がのアジアの雄だとの権威高揚の思惑も有ったのでしよう。
▼筆者の国民学校四年生頃。ベルリン大会の「民族祭典」実の祭典「記録映画を学年全員南座」で見た。(韓国・朝鮮人を含む日本選手の活躍に湧いた!)
▽只、その頃中国との戦争が拡がり、昭和13年(1938)7月、ついに日本は、東京オリピック大会を自主返上に至る。
▼昭和13年には「酒」が統制になり政府主導で酒蔵と酒屋の統合で廃業や合併が進められた。衣料や食料品も配給になった。
▽昭和16年12月8日朝、軍艦マツチの中 米英両国と戦闘状態に入ったニュースが流れた。多くの皇民は「危なくなれば神風が吹く」と勝利を信じさせられた。
▼結果は大きな犠牲を払って敗戦。その反省で、平和憲法を持つ「国になり経済大国と言われる今日になった。戦争を進めた大」は罰せられ、財閥は解体された。

ヨシイちゃんのひとりに



亀に学ぶ助け合いの心



亀に助けられた浦島太郎の話は、殆どの人がご存知の話。

写真の「サカガメ」は、裏返しのままだと死んでしまうとか。それで仲間の

ていた。物語は、たとえ話の中で「生命や思いやりの心」等、人間生活の本質的な基本精神を白紙に近い幼児に教えていた。

平和が続き経済の発展と共に、物資的「損得」勘定が、多くの分野での評価基準に成り、政治や経済等の世界では「優・劣・勝・敗」が優先して今に至り、人間世界は「末世」の感がしていた。その時、この「亀」の事をネッソトで見て、カメの懸命な姿と身を貼って助けようとする姿に共感する人々が2万を越すと知った。

そう長い映像ではなく、懸命に努力し最後には「亀を元に戻し」仲よくその場を去る姿は、拍手をしたい程、ほろろしく心温まる映像であった。見た後で何回再生されたか見ると、実に300万回。人類の世界は、マダ当分は安泰だと思った。是非一覧あれ！

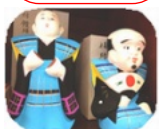
参考文献：Juttyunbu 執筆：原田たかし様 検索動画 ひつくり返ったカメを助けるカメ



ありとせりせりする 北風と太陽等）から始まる

かっつて 幼児教育は「ソツ」 プ物語（「蟻」と「おろぎ」）

稲荷山 ぶらり散策記⑨ 越智薫史



稲荷山の土を使つて造られた土人形が伏見人形と言ふのは良く知られた話である。蕪村の句に、深草の土くれぬむ燕かながある。伏見街道のどの家にも燕が巣をつくっていたのであろう。人形にする土をぬすんで巣づくりしたというのだ。現在は車の洪水で燕もあまり住まない。伏見人形の店は江戸の終わり頃には60軒もあったという。街道沿いに軒を連ねていたようであるが、今は大西さんの店、

つながらない生き方 石動敬子

どんな？と、「朝いち」（NHK）を視聴した。もしや、かの「生活不活発病」？と思つたが、違つた。たとえば、すまほなどへの過度の依存症からの脱出、脱デジタル化がテーマだった。絶えず対応を迫られていたら、しんどい。からだにも悪い。確かに人付き合いに多少の憂鬱は伴う。「へえ、あのあとお茶したの？」「いや、別の店。あなたとは？」「いや、一人だったよ」ふーん。

ひとときが気にならないわけではない。が、つながらない生き方の達人が、わが身辺には少なくない。「つながりたくない」とはつきりいう人もいる。つくづく求め合う距離感もいろいろだ。「淡々と付き合う」「つかず離れず」で「好き嫌い」を越え、時と場合で即断の「ミステリアスな女」でいいか。ママ友つながりというような、独特の

ものはどうやら娘たちの世代に限らず、あるものらしいから。おもえばつながりを断ち切ることで、新たな挑戦が叶つたわが青春だった。あえて、地元仙台を離れ、「知らない街を歩いてみたい」というような漠然とした、憧れだけで京都にたどりついた。

以来45年。若くない今は、むしろつながる生き方、ゆるやかに繋がつてこそ叶うことを実感している。たとえば某スポーツ施設の湯などで人さまの話を漏れ聞く楽しみは捨てがたい。そんな具合で、サークル、団体、組織などに気楽に入会し、所属もしてきた。

如何に効率的に習得するか、が肝心な「ぼそこん教室」もそのひとつだが、2年を経た今もひよこ組で在籍し、おまけのクラブ活動、美味しいもん食べに行く機会やら、社交ダンスクラブにも所属している。PC操作上のピンチを何度も助けてもらった有難さで、さしたる技能向上

丹嘉が一軒残つていただけだ。寛延年間創業（1746-1751）の老舗窯元である。一休禅師の句に、西行も牛もおやまも何もかも土に化ける伏見街道がある。

当時の風景を題材にした落語に、三十石という話。伏見港に向かう二人連れが伏見街道を下つて伏見稲荷にさしかかり、伏見人形の店の主人とのやり取りである。喜六「これ、饅頭食いちゃうのは、これなんや。手に持つてるのは、こら饅頭かい。主人へえ、これはお饅食、てまんやがな。これは賢い子どもでしてな、これお前はんお父つあんとお母はんとはちがう、ありがたいうと思つて、こない聞きました

もないまま、目下在学3年目。最終学歴はこということにならう。

煩わしいから組織嫌いという人も多い。見ているだけなら、岡目八目で、当事者よりものの見える場所に居られる。記憶の中の六月のサッカー然り。やはり適材適所、流動的な流れの中、チームプレーはそれぞれの動きがうまくかみ合い、つながつてこそゴールとなる。

だから、やはり、「つながらない」生き方の自立は勝ち取つたうえで、出来たら、心あるつながりのなかにいて、ゴールの感動という瞬間を味わいたい。9か月かけて準備してき



た、合唱団同窓会のみちのく行き小演奏旅行も出発の時が来た。30人足らずでだが、「阿闍梨餅」を土産に、被災地宮城、福島の小、中学校や病院訪問に予定通りあす旅立つ。

層が含まれているという。日本書紀には伏見の土師師について記されている。この界わいが土でものを作る人々の永住地となり、祭事用の土器から、日常生活に必要な土器をつくっていたという。伏見人形のルーツがうかがわれる。

残念ながらいまの伏見人形の土は信楽から買っているとの事。昔は稲荷山山裾から東福寺辺りにかけて土を掘っていたが住宅地が密集して掘る場所が無くなったという。

それにしても伝統あるの伏見人形、現在は伏見稲荷神社参道の土産物屋にもほとんど見かけるとは無い。なんとか残してほしいものだ。

京都&東山
ぶらりピカリ
62

七条通

⑤

6月中、
ファミマ
2階ギャ
ラリーカ
フエ集で

どんつきと 架線修理用車庫

フエ集で

福田静二様が『京都の市電 昭和を歩く』と題する展覧会を開催して下さった。実は、私も高校時代写真部で、主に「鉄道関係」の写真撮っていた。当時の写真先生は、後に鉄道写真家として著名な亡き高橋弘さん。左の掲載写真も同氏に戴いたもの。◎市電⑥京



都駅発。河原町線經由で烏丸車庫行を「内浜」電停下から塩小路方向を撮影されたもの。塩小路で曲がる突き当り〓京都弁は(ドンツキ)屋号の靴屋さんが見える。



廃)今も鉄筋コンクリート「※市電架線修理用自動車車庫」(建物だけ写真)がある。※が何故有ったのか? それ

は東山区七条通の地形が「U字形(わが店が谷底)坂道。そこに上に二本架線に届くポール付の市電が坂の影響スピード上がり(西行・南側を)下って来る。その影響でポールと架線の間に隙間が出来てポールが外れ、そのポールが架線を(再々)切断し通電しなくなり(広範囲に)電車がストップした。すると車掌さんが切断された架線を荒縄で縛り、線路や通行車(人が触れないようにする。やがてその車庫から「架線修理用車」が来て、車台に設置した折畳式の梯子を挙げ架線接続修理、市電は動き出す。そんなことで、当時「車庫」は重要な役を果たしていた。

市電全廃して37年。今も全く当時の姿のままの車庫、使用された形跡すらない。建物も頑丈で修理不要、オマケに固定資産税も不要?。何処が管理されているか知らないが♪ははのんきだなと♪の人生き節を歌いたい気分になった。人生幸朗・生恵幸子、(夫婦漫才コンビ)が、いやはったら(居たら)代わりに「責任者出て来い!」イチャモンを付けてもらえろのだが、そんなお方もなく。勿体ないなあ

隣の三角屋根の建物は「柳原銀行」(平6年・京都市登録有形文化財・現在は移築され資料館)明治32年(1899)に明石民蔵(あかしなみぞう)氏を代表として設立された。銀行の旧社屋は移築されたが、希少な木造の銀行建築物で京都市文化財に登録され、その近くには、柳原町長を務め、住民の生活向上などに尽力した桜田儀兵衛(ぎへえ)氏を顕彰する石碑が有る。
河原町七条(内浜) 上る東側に市電が無くなった(1978・9)30全

今頃、京都市が売却公示なさった。

市電が走った 京都を巡る

52



丸太町七条
本松を出た
市電は、丸

太町線の最後の区間を西へと向かいます。長かった丸太町線の市電乗車も、あとわずかとなって来ました。

右手には京都市立病院が見えますが、それ以外に見える街並みは、それまでの車窓と変わらず、木造二階建ての民家・商家が続きます。付近の地名は「聚楽廻」から「西ノ京」へと変わります。

まもなく到着する停留場が「丸太町御前通」です。交差点の南側にある学校は、朱雀第二小学校です。丸太町線の千本以西は昭和三年の開業で、その時に停留場も設置されています。交差する南北の通りが御前通で、北は北大路通の



丸太町御前通りに着いた市電

やや南から、南は九条通を過ぎたあたりまで伸びる、延長七キロ余りの道です。北には北野天満宮があり、その前を南下します。天満宮の御前の道から、御前通と呼ばれたと言われます。

先号の丸太町七本松でも紹介しましたが、この付近は、豊臣秀吉の市街地改造で、市中に散在していた寺院を集めて生まれたため、いまでも寺院の多い地域です。丸太町通には寺院は見られませんが、一歩丸太町通より北に入ると、さまざまな寺院が軒を連ねています。そのなかで、ひととき印象的な茅葺の長屋門がありました。仁和寺門跡の御典医をつとめた奥深家の下屋敷で、主屋とともに京都市指定有形文化財に指定されています。

玄関には「蘇命散」の看板が掛かり、御典医と薬販売の格式をうかがわせる重要な建築遺構です。さて停留場の名称を、京都独特の座標軸で表示する場合、「通」は付かないのが通例です。ところが御前通に限っては、丸太町御前通だけでなく、七条線では「七条御前通」、九条線でも「九条御前通」であり、さらに四条通を走っていたトロリーバスでも「四条御前通」でした。いまの市バス停留所も同様で、なぜ御前通だけに「通」が付くのか、その理由は定かではありません。ただし、交差点に掲げられている道路標識は「丸太町御前」になっています。

御前通を南に下ると山陰本線が見え、丸太町通とほぼ並行します。現在でこそ高架の線路となつてい



終端近くの丸太町通を行く市電

ますが、市電当時は地上を走り、踏切を越えて南側へ抜けていました。蒸気機関車の走っていた時代、大きな汽笛も聞こえてきたものです。山陰線は、平成八年に高架化されます。

この付近で、我々の世代には、忘れられない出来事がありました。大学紛争が激化していた昭和四十年代前半、立命館大学に在学していた高野悦子さんが、学生運動、失恋、人間関係など、葛藤と挫折から生きる希望を失い、下宿近くの山陰本線の列車に飛び込み、自ら命を絶ちます。その後、家族に よって彼女の日記が発見され、新潮社から「二十歳の原点」として出版され、この時代を代表するベストセラーになりました。私も本棚にある黄ばんだ本を見ると、ついでに御前通にあった山陰本線の踏切を思い出していました。

酒屋で生きて 生かされて



第百三話

酒屋でなく⑤ 別の道を探し

酒屋でなく⑤ 年敗戦直後、祖父喜一郎が没後、父喜一郎が没後、やや落ち着いき10月疎開先から京都に戻った。その翌朝新聞に共徳田球一志賀義男の両氏が18年振り牢獄から解放された(「政治犯約3千人も」)記事を見た。13歳(当時)の私が生まれる前からの長い年月を戦争反対で囚われていた人を知り驚いた。

平屋村(美山町)に集団疎開していた学友達も戻り賑やかになった。校庭はマダ畑が残り遊べない。室内遊びで「政党ゴッコ」が始まった。当時の政党名のグループ(自由党進歩党・協同党・社会党・共産党)をつくり演説の真似をする遊びだった。その頃、子供の遊びでも自由党多数派、私が加わった共産党グループは極少数派だった。一ヶ月位で、政党ゴッコは野球に取って代り、ボールもグローブもなく「ラムネ玉を中心に包帯と糸を巻きの「ボール」と軍手を重ねグローブ。中学へ高校へ進み雑誌「改造」中央公論」父に隠れて読みだした。中国の内戦にも興味を持って「中国の赤い星」(1937年)生ドラゴン」を讀んで感動した。その時期に「母」が実の母でないことを

事も判り、私は「酒谷家」には不要の人だろうと、自分の進む方向で悩んでいた。大学に入ったが、父は「学費は出さずバイトで稼げ」。その上「女性からみ」で家族の揉め事が絶えない日が続いた。その頃(1950年)社会科学の勉強会の「東山日曜会」に毎週参加した。参加者は殆ど若者。勉強、その後の雑談や歌も楽しく面白かった。人数も増え、近くの常徳寺さんに部屋をお借りして続いた。立命大の前島省三先生や平女の藤井義三郎先生(昨年亡)等々の参加も有って質の高い勉強会だった。当時の仲間は減ったが「関西電気保安協会やキンチョウ」のCM企画者のH君は今も元気。「云」が無くなつた後、三条寺町で偶然に出会い「就職は？」と聞くと「電気会社だ」と思い就職し広告の電通だったと嘆いていた。でも、電通ならエエやん」と励ました。

床夏

編纂史子 Fumi kokusei

近年、日本列島も熱帯化してきているのか、夏々、夏の暑さが厳しくなっているような感じがします。盆地の京都は夏が暑く、良く耳にしますが、コロンクリートジャングル東京から出向くと、その暑さの違いに安堵することがあります。

山に囲まれ、町に川の流れる京都の暑さは自然です。灼熱の太陽が降り注ぐ日中は気温も上昇し、不快度指数二一〇までですが、一度日が沈むと空気が冷え始めます。時折吹く風が、足元を涼しげに通り返していき、夜がふけるにつれ、体感温度が明らかに違うのを感じます。残念ながら東京では、もうこの感覚は得られません。

都会でありながら自然に恵まれた京都には、夏の暑さを少しでも緩和するための「自然と暮らす」工夫が、未だに息づいているのを目にします。その代表が、今や京都の夏の風物詩になった「川床」でしょうか。川の上

自分のTシャツをよく観察してみると、簡単に見えて素人には「この部分が微妙に難しそうだな」という箇所がチラホラあります。例えば首元がビラビラならないように別の素材を使った方がよいのか、腕の部分はやはり分けた方がよいのか、裾はどうしようかなど、いろいろと、作っていて楽しい部分もあります。ビーズは何色をどうやって入れようか、これはフリップを付けてみようか、チャックは付けて、実用的にするのもいいなあ。そうこうしているうちに、小さいTシャツに押すキャラクターが叫ぶので「強くなるんだもん」「私は可愛くしてよね。生まれただから、ふわふわリボンとかも

現代において、何も暑苦しい夏の夜に、わざわざ外で食事をする必要もないのに、川床の文化が継承されている京都。時代とともに趣は変わったとはいえ、古き良き日本の姿を少しでも残そうとする考えは京都ならでは。京都人であるフラーリパッドも、自身の音楽を通じてそんな京都の姿を伝えられればと思っています。京都をテーマに曲を書くこともあり、「床」の「夏」と書いて「とこなつ」という曲はその代表。ウクレレが運ぶ夏らしいサウンドを、京都の夏にのせてみたら、川床で聴こえる川をせせらぎになりました。暑い夏を少しでも涼しく過ごす工夫のひとつとして、フラーリパッドの音楽もいかがでしょうか。

▽そして場所と建物が何に利用されかを当てる「クイズ」をフックに掲載した。そこへFB友から京都市が建物を売る公募」と発表した報せが入った。

▼クイズの答えは「公募」の知らせに書かれており、急遽クイズを中止通知をFBでした。37年間ホッタルカシといて、何で「私クイズ」邪魔するねん！だ。

▽仮にそこを月10万でも37年貸していたら5千万近い収入だ。物を粗末にするも「勿体ない」が、少しでも「お金」が入るのに手を打たないのも又、勿体ない。ケチで貧乏な私はそう思う。

▼「勿体ない」は、ノーベル平和賞を受賞したケニア出身の環境保護活動家ワンガリ・マタイが2004年使った世界的に有名になり大流行した日本語。祖母の口癖でもあった。▽祖母は鼻をかんだ紙も残し屑屋さんに、尿尿は山科の農家が汲取り「肥料」に、農家がお札に野菜を下さる、他のゴミも集めれば持帰るゴミ屋さんがいた。(昭24位まで)

▼1956年経済白書には「もはや戦後ではない」と記され、消費経済最大の発展となり今に至る。起ころうとの動きもあるようだ。戦争は最大の「勿体ない」の塊。止める力は人間のみにぞ有る。

Tシャツ月三天



皆さん、Tシャツはお召しになるでしょうか？私は専ら夏場はTシャツで過ごします。涼しいし動きやすいし汗を吸収してくれるし汗を

ざとなったタオルとしても使えます。アメリカの水兵さんから始まったようで、そこから徐々に広がっていき、白一色のみだった当時に比べて、今は色彩豊か様々な表現が施されています。そうそう、ですから現代は、先に述べたような用途に必ずしも当てはまるという訳ではありません。さて、ただいま小さなTシャツを作ろうと試みているのですが、

自分のTシャツをよく観察してみると、簡単に見えて素人には「この部分が微妙に難しそうだな」という箇所がチラホラあります。例えば首元がビラビラならないように別の素材を使った方がよいのか、腕の部分はやはり分けた方がよいのか、裾はどうしようかなど、いろいろと、作っていて楽しい部分もあります。ビーズは何色をどうやって入れようか、これはフリップを付けてみようか、チャックは付けて、実用的にするのもいいなあ。そうこうしているうちに、小さいTシャツに押すキャラクターが叫ぶので「強くなるんだもん」「私は可愛くしてよね。生まれただから、ふわふわリボンとかも

「キラキラがいい！だって青春真っ盛りの所を取り上げられたのだもの」文字や作品と向かい合っている、常に何かを考え、観察し、実験しようとする思考が回ります。という前置きで、話が少々曲折しました。皆さん趣味を見付けましたか？色鮮やかなTシャツ賛歌は、色鮮やかなTシャツに個性的な動物や四季折々の行事が皆さんの中にある、やりたかったこと、を思い出させてくれるかもしれません。

集西楽サカタニ8月の展示は、宮田昌幸さんのTシャツ展。柔らかくでらかな色彩が、迎えてくれることでしょう。

宮田昌幸さんのTシャツ展。柔らかくでらかな色彩が、迎えてくれることでしょう。